

二島中学校だより

No.6

北九州市立二島中学校
校長 森 隆

酷暑の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。生徒たちは、いよいよ1学期も終わりに近づき、長い夏休みを迎えようとしています。1学期は、各学年で宿泊行事や校外学習などの行事を体験しました。また新たな学年で毎日の授業や期末考査の学習、掃除、係活動、部活動や生徒会活動など日々努力を重ね、大きく成長してきました。

さて、この夏休みは、ご家庭で成長する期間です。子どもに必ず目標をもって、生活させましょう。「得意教科を作る。伸ばす。苦手教科を克服する。」「将来の進路についてじっくり考え、将来はどんな職業につきたいか？どこの高校を目指すか？目標を決める。」「部活動・クラブ活動では、どんな選手になりたいか？」「2学期始業式の日自分はどんな成長しているのか？」を考えさせて夏休みを迎えましょう。夏休み前、是非話し合ってみてください。子どもが目標をもつことで、規則正しい生活「早寝・早起き・朝ごはん」が実行されます。スマホ・ゲーム、深夜徘徊等の夜遊びが子供の成長の大きな妨げになりますので、ご指導の程よろしく願いいたします。

中体連夏季区内大会、大健闘！！

7月2日（土）～7月10日（日）にかけて、3年生にとって最後の夏の区内大会が開催されました。

女子バスケ	優勝 【市内大会出場】	野球部	1回戦惜敗 《対石峯》
女子バレー	準優勝 【市内大会出場】	サッカー	リーグ戦惜敗 《対高須、対若松向洋》
男子剣道	団体準優勝【市内大会出場】 個人 第3位：宮本克英 第5位：有川昇汰	男子バスケ	2回戦惜敗 《対洞北》
女子剣道	団体準優勝【市内大会出場】 個人 第4位：中橋瑞希 第5位：矢野保乃花	男子バレー	リーグ戦惜敗 《対高須、対若松》

本校のどの部活動の試合でも、最後まであきらめることなく必死に戦っている生徒たちに感動をもらいました。市内大会に進めなかった部活動については、3年生はここで活動が終わりますが、本当に良く頑張りました。今まで努力してきたことを誇りに今後の人生の糧として、頑張ってください。そして、これからは気持ちを切り替えて、自分の進路に向かって突き進んで欲しいと思います。また、1・2年生の生徒たちはこの悔しさをバネに秋の新人戦へ向けて良い準備をしてもらいたいと思います。すでに戦いは、始まっています。

また、市内大会出場を勝ち取った女子バレー部、女子バスケット部、剣道部、水泳部については、あと少しの練習を集中し、最後までプラス思考で練習に取り組んでください。県・九州・全国大会へと続いていって欲しいと願っています。皆さん、全力で応援しましょう。

次の日程で市内大会が行われます。感動できる素晴らしい試合になることを信じています。もし、時間の都合がつく人は応援に行きましょう。もちろん、応援マナーを守って標準服で！

日(曜)	部活	会場	開始時刻 ・ 対戦相手
7/16(土)	市内陸上	鞘ヶ谷競技場	個人 10:40～3年女子 800m (競技開始)
7/17(日)			個人 13:50～1年男子 1500m
7/21(木)	女子バスケ	北九州市立総合体育館	トーナメント戦 (組み合わせは、7/18に決定)
7/22(金)			準決勝・決勝
7/22(金)	水泳	文化記念公園プール	個人 9:30～女子 400m メドレーリレー (競技開始)
7/23(土)	剣道	北九州市立総合体育館	個人戦 トーナメント戦 13:15～ (競技開始)
7/24(日)			団体戦 リーグ・トーナメント戦 10:00～ (競技開始)
7/25(月)	女子バレー	北九州市立総合体育館	予選リーグ 11:30頃～VS 浅川 13:30頃～
7/26(火)			決勝トーナメント 9:30頃～

高等学校の先生方による出前授業

7月5日(火)に、3年生に対して出前授業を企画しました。中学校を卒業すると義務教育を終え、自分の進路に向かって進んでいくことになります。高等学校では、中学校の基礎的な勉強を土台にして、将来の職業や専門的な分野の勉強をします。その一部を見せて頂きました。生徒たちは希望の授業科目を選択し、授業に臨んでいますので、興味を持って真剣に楽しく学習しました。

【折尾高校「生活デザイン」】

《ペットボトルキャップを使って針山製作↓》



【遠賀高校「理科」】《DNAの抽出↓》



【戸畑工業高校「工業」ものづくり】

《竹とんぼ制作↓》



【星琳高校「食物調理」】

《ステーキ、いちご大福↓、果物の調理》



おいしい夏野菜を栽培！

特別支援学級の生徒たちが夏野菜を栽培しました。新鮮ですので、すごくおいしいです。生徒たちは、キュウリがどのようにできるのか？どのような形で実になっているのかを知りました。ほとんど店に並んだ野菜しか見ていませんので、生きた学習となっています。

また、自分たちが耕した畑で、命が宿り、その命が大地から頂いた養分と太陽のエネルギーを十分に吸収してきた野菜です。我々が野菜を食べるのは、大地と太陽の恵みを頂くのです。



【自分たちで栽培した野菜で、満面の笑み】

「標語コンクール」で表彰されました！

二島中学校地域会議にて、本校6名の生徒が表彰されました。「がんばろう九州！」というテーマで熊本・大分地震災害の被災地へ向けて、応援メッセージを送ろうという意図で、地域会議から標語募集があり、本校の全校生徒に書いてもらいました。下記生徒6名が表彰されたので、お知らせいたします。

【左下から柴田愛さん・山頭萌さん・平木歩美さん・陽勇也斗くん・吉田李緒さん、右上が磯村由奈さん】

なお、表彰されなかった標語については、全作品によるメッセージボードを作成し、若松イオンに展示します。後に熊本イオンに送付する予定です。二島小・二島中・若松商業高・高稜高校の生徒の作品ですから900作品近い応援メッセージになります。被災地の方々に励ます温かい想いが熊本の地に届くことを願っています。



「青少年育成大会」開催！

7月2日（土）に若松区市民会館で、「第41回北九州市青少年育成大会」が開催されました。アトラクションとして、本校の合唱部が出演し、「栄光の架け橋」他4曲を熱唱しました。部員30名で毎日早朝練習と放課後の練習を欠かさず行っており、その積み上げが素晴らしい歌声になって観客を魅了します。この日は市長も来場されており、市長はじめ多くの方々を感動させてくれました。

本校合唱部は、8/5にNHK全国学校音楽コンクール県大会（会場：福岡市民会館）に、8/7にJCA九州合唱コンクール（会場：飯塚コスモスコモン）に出場します。

また、「中学生・高校生意見発表」では、本校2年生の「門野花奈」さんが発表し、多くの方々に賞賛の声を頂きました。思春期の中学生の心の内を表す素晴らしい発表ですので、その原稿をご紹介します。是非、ご家庭で子どもと保護者が一緒に読んでもらいたいと思っています。

私は今回、この意見発表のテーマ「家族にも『ありがとう』と『ごめんなさい』」を初めて聞いた時、私にはこの作文は絶対に書けないと思いました。なぜなら、自分の日頃を思い返してみると、私は家族に「ありがとう」や「ごめんなさい」という言葉があまり言えていないからです。しかし家族は一番近くにいる人、いつもお世話になっている信頼できる人なので、この作文をきっかけに考えてみようと思いました。

普段私は家族には照れくさくて、なかなか「ごめんなさい」とは言えていません。喧嘩をして意地を張って言えないこともあります。喧嘩と言っても、ほとんどが私の八つ当たりで、自分が悪いことは分かっています。でも、ごめんなさいの一言が言えません。言ってしまったら、自分が負けたと思う幼稚な気持ちがあるからです。また自分の都合が悪い時や面倒くさい時にも、きちんと謝れていない自分に気づきました。母はそんな私の気持ちを知っているからか、いつも私が謝らなくても、少し時間が経てば普通に私に接してくれます。私は自分で自分を甘やかしていると感じたので、このままではいけないと思いました。だから自分が悪い時は素直に謝ってみようと思い、先日思い切って母に謝りました。その時は、すごく声が小さくて、軽い感じで、あまり真剣とは言えませんでした。きちんと言葉に出すことで、母に伝わったことが分かりました。その後の母の少し喜んだ顔を見て、言って良かったと思いました。

私は「ありがとう」という言葉もあらたまって伝えることは苦手です。だから、何かをしてもらったときに、ありがとうと言うくらいです。少し前に、母が出張に行っていた時、私は母の代わりに洗濯を試みたことがあります。私達がいつも出している洗濯物は、毎日汚れや服の種類もさまざまということがわかりました。さらに私の部活動の水着や父の靴下の下洗いは全て手洗いだし、制服やカッターシャツは母がいつもアイロンまでかけてくれます。この日、私は精一杯しても母の真似はできませんでした。私はあらためて母の有り難みを感じました。でも私は母にありがとうと言ったことはありませんでした。それどころか、私は母がいつもしてくれていることを「母の仕事」と勘違いし、してくれていなかったら、文句を言うことさえありました。今考えると、母に申し訳ない気持ちでいっぱいです。母は洗濯だけでなく、食事の準備や掃除もしています。私達が普段当たり前のように過ごしているのは、母が毎日大変な家事をしてくれているおかげなのだと思います。

そんな母の口癖は「お母さんは産んだだけでもえらいんよ」という言葉です。これを聞いて、最初は何のことを言っているのかよく分からなかったけれど、いろいろ考えるうちに、私はまず今自分がここにいることも決して当たり前ではない、奇跡的なことなのだと思います。親の親、そのまた親から…と、どんどん続いている命のつながりから、奇跡的に私に命が与えられているのです。当たり前でここにいるわけではありません。両親が産んでくれて、それから何不自由なく普段の生活が送れるように、今日まで大切に育ててくれました。おかげで二島中学校に通い、大切な友達もできました。その源は私の家族です。大事な家族だからこそ、自分の気持ちを伝えられる時に、素直に「ありがとう」や「ごめんなさい」という言葉で伝えたいです。そして自分の周りの出来事も全て当たり前なことなんかではない、奇跡的なことの連続だということをかみしめて、日々を感謝の気持ちや謙虚な気持ちを持って過ごしていきたいです。